

開け行く南丹市の未来をつくる

平成二十一年春 JR嵯峨野線複線化

一八九九年(明治三十二年)京都鉄道嵯峨園部間が開業してから百七年、沿線住民の悲願であったJR山陰本線(京都園部間)の複線化工事が、平成二十年度の完成をめざして進められています。その概要をお伝えします。

事業の概要

今回、複線化事業が進められているのは、既に複線化が完成している二条～花園間(約二・七キロ、平成十二年完成)と嵯峨嵐山～馬堀間(約七・八キロ、平成元年完成)を除く、約二十二・八キロです。京都～二条間(約三・三キロ)では、丹波口までの盛土や二条の高架橋工事が進められています。また、花園～嵯峨嵐山間(約三・四キロ)では、太秦までの高架化や嵯峨嵐山までの盛土工事のための仮線路の敷設工事が進められています。

馬堀～園部間(約十六・二キロ、亀岡市域約九・三キロ、南丹市域約六・八キロ)では、区間内の用地買収が進められており、平成十

八年十月現在までの用地買収の進捗率は五〇%強となっています。

また、各所で山切り工事や落石防護工事等が進められており、用地買収後、路盤や橋梁工事の完了した箇所から軌道の新設工事を進める予定で、平成二十年度内には、全区間の工事が完了することとなります。

馬堀～園部間の複線化事業費百二十一億円については、JR西日本、京都府、沿線市町が三分の二ずつ負担することになっており、また、沿線市町の中では、人口、駅数、乗車人数等に応じた負担割合を決めています。その結果、南丹市の負担額は、約十四億七千万円と見込まれており、平成十七年度では約一億三千七百万円を負担しました。